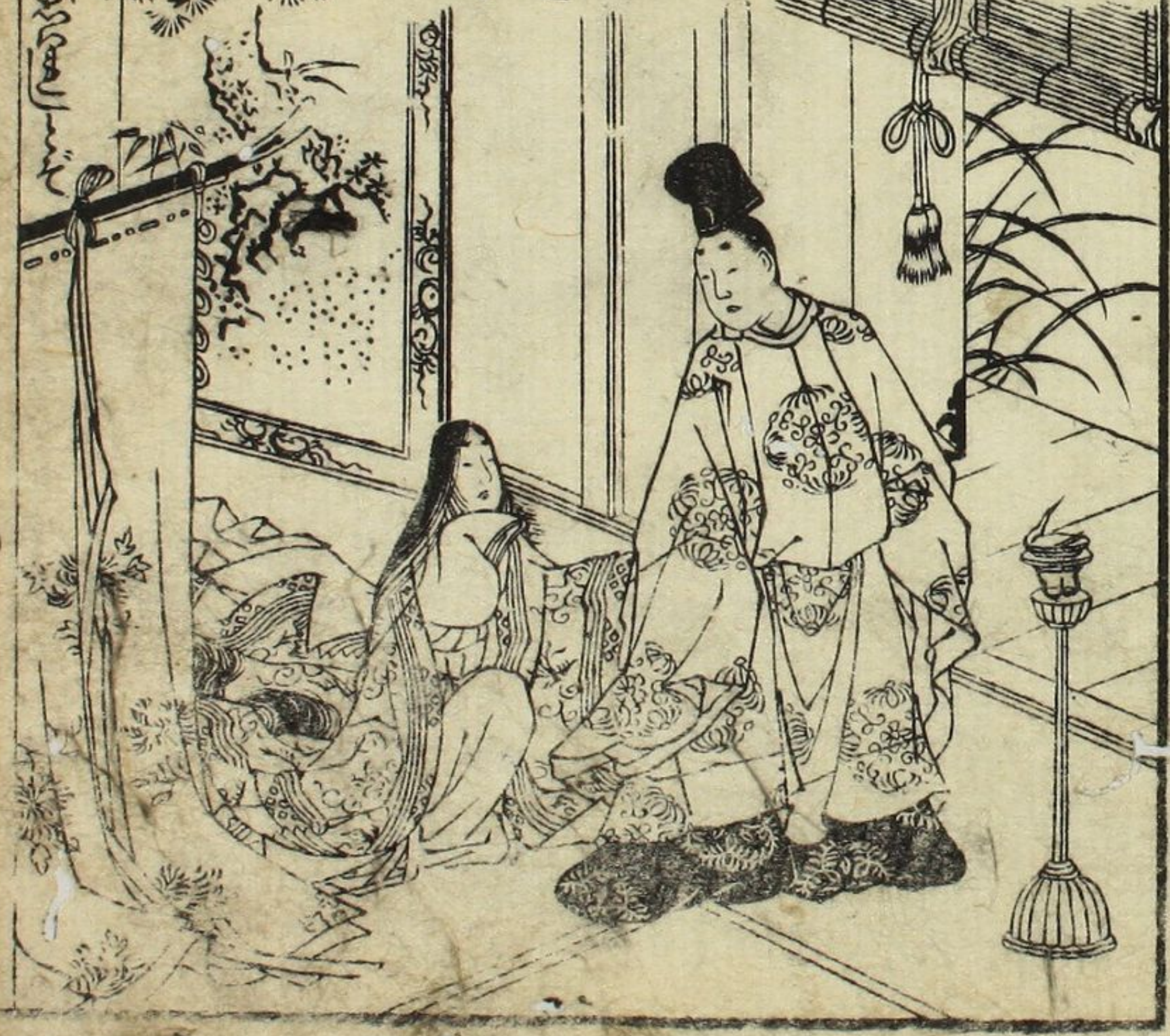




女消息
全



伏見加賀と云ふ鳥羽院の
 伊后は愛門院は伊一姫房
 なる前人の名を以てあはれ
 一首の歌後出たるまゝ
 よく出来たりされ我あはれ
 妻を形重し思ひてはけい
 と後なる詮かしのそはけい
 わいませわん時小後さかき
 やあんなさひのわらおほは
 のた所存にとかかき海は
 かさひのひのまのたか
 うとしくくををのひの
 今こそとりぬらまて
 おてより思ひ
 こころのちかかきせん
 とまてとんりたはも



世々
 小物



女消息往来全



婦人優劣詞

夫とたぢちと
母とあらし又
男とては
女とては
過とては
そととては
福とては
おととては
おととては
おととては
おととては

二十六歌仙之圖

 <p>舟とては 舟とては 舟とては 舟とては 舟とては</p>	 <p>紙貫之 紙貫之 紙貫之 紙貫之 紙貫之</p>	 <p>丸中 丸中 丸中 丸中 丸中</p>
---	--	---

 <p>丸中 丸中 丸中 丸中 丸中</p>	 <p>舟とては 舟とては 舟とては 舟とては 舟とては</p>	 <p>世平 世平 世平 世平 世平</p>
---	---	---

たよりとては
おととては
おととては
おととては
おととては
おととては
おととては
おととては
おととては
おととては
おととては

 <p>山色 山色 山色 山色 山色</p>	 <p>紀友則 紀友則 紀友則 紀友則 紀友則</p>	 <p>舟とては 舟とては 舟とては 舟とては 舟とては</p>
---	---	---

 <p>僧正遍照 僧正遍照 僧正遍照 僧正遍照 僧正遍照</p>	 <p>舟とては 舟とては 舟とては 舟とては 舟とては</p>	 <p>小野 小野 小野 小野 小野</p>
---	--	---

いそぎにわかれ
わかれをいじり
足身とらうか
あはれ海とらう
天竺の香とらう
あはれとらう
狂女とらう
ねんをとらう
秋のめとらう
小とらう
いととらう
常とらう
名とらう
とらう
いととらう
いととらう



わいとく
みよとび
あとかひや
さけとら
おらとら
いととら
いととら
いととら
いととら



七夕詩奇盛

懐少年

長之巧

竹竿上

秋源多

風恒秋

露及明物

涙不茶

や

七夕乃

ぬる秋

とく

た巻系法正

あけの

う

か

太源順

水の井

あ

た坂上

み

あ

あ

ゆ

た巻系法正

あ

あ

た巻系法正

秋の

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

七夕の

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

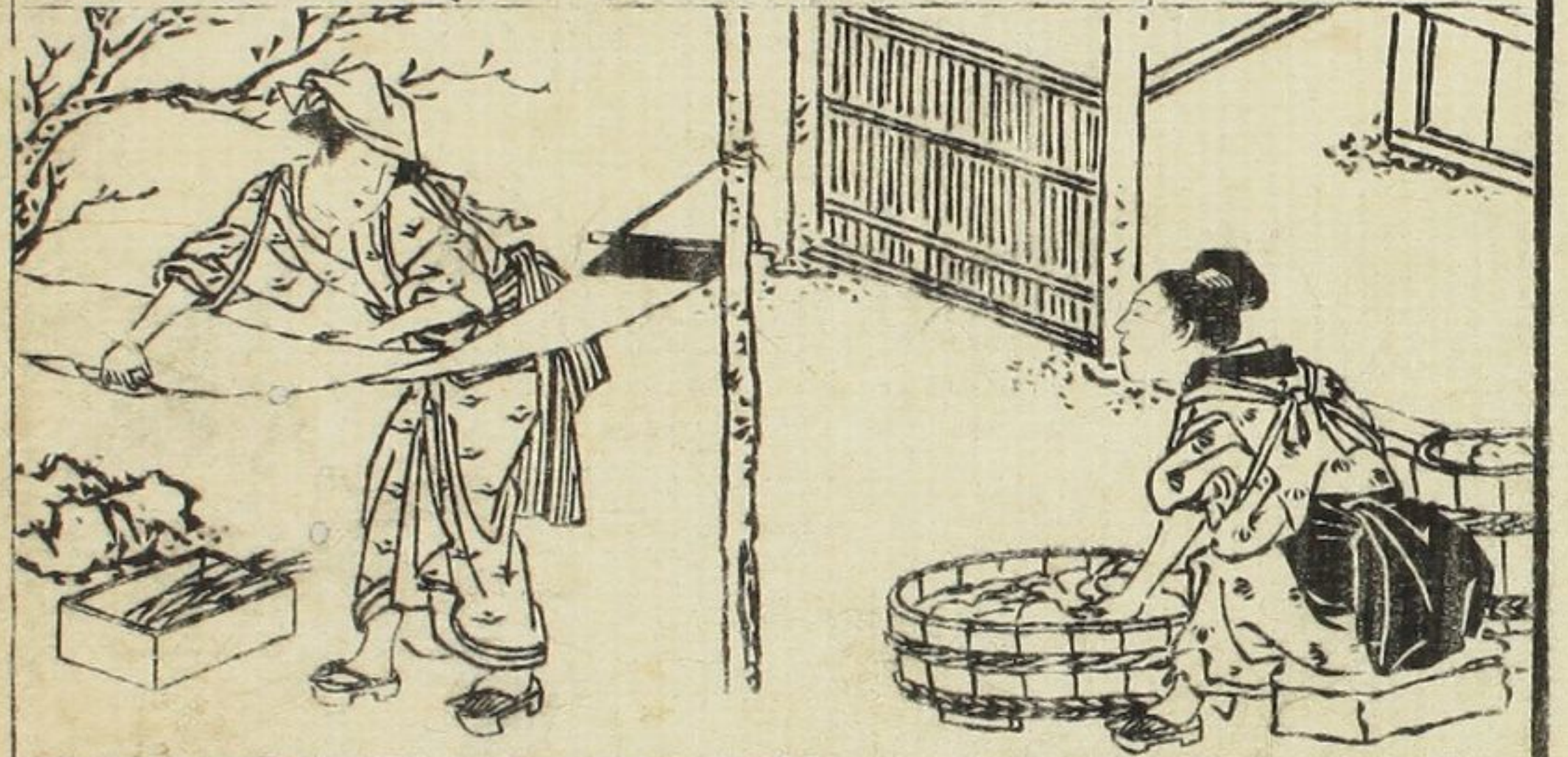
あ

ひじくおのひ
きりぬき
あまのこけ
まのの神
とけい
大の川あさ
あつた
こしみけい
かきかき
てれ川あさ
くも七たの
の衣れ
ふゆ
それふか
あつた
くれゆき
うけり



○茶志みおかし中
白きお茶の志みる板の板にては
漆の付るのみをけしきとわく
衣紙をよとの付る上下紙を
かじのさかお紙付つけ紙の
はの付るお三升を不冷しに
さし紙の付るおすし紙
又石を粉しておの紙を
炭をえりお紙を
おの紙の付るお紙の
のみ漆の付るお紙の
すすまの紙の付るお紙の
お紙の付るお紙の
おもとふお紙の付るお紙の
白紙の付るお紙の付るお紙の
茶漆のお紙の付るお紙の

天の川
七たの
あつた
くれゆき
うけり



○洗は漆ぬのひでん
すすまの紙の付るお紙の
おもとふお紙の付るお紙の
白紙の付るお紙の付るお紙の
茶漆のお紙の付るお紙の

つみぢ屋う探る〜征先

入らるる年始七福

初まは新玉七もいあまぬ

春のさずらで〜

つらぬら〜

法事〜

よ〜極〜

つ〜

つ〜

つ〜

清こ様き煙ぐん結よ清きならふは息そ
 もも甲う安いわののつままののの
 妻め成なしる女にてし法はの
 重おも小こ松まつ海うみうお留と留と留と
 小こ松まつのの義ぎ美み年ねんもも美み

百ひゃく代だいのの末すえもも江えのの船ふね
 目めもも度た度た度たええのの法は
 かからら明あるる上う忌い憚はらら
 のの易やす思しふふのの法はのの不ふ
 りりししてていいるる也や

七

三

傳信堂

然くお後ひつ後味茶
 飾甲比敷子半海扇半
 貝年まぬし考とひふ
 のまら端下能とひふ
 ら終らるとふぬ教兼末

ねうら平瀬あつて玉丸
 志如くあつてはるるふ
 まらゆりく打角餅をひふ
 如月のうきふらひひ
 暖天の氣は意し目如く

之り長閑地乃とる以白
 痕子乃の初は口良句ある
 中娘ふツ致内表離一封
 前司人於葦麻蛇と至
 波しウ給と下者アし一色

程細いたし花見汐干
 華性春らウ遊ふ法無び
 少慰沙楽少法し口消
 乃少使中黄居程法
 足物乃者ウ忌行少場

一花 沙堤 一 傍 菖蒲 刀 ね
 沖 想 飲 杯 少 子 是 極 口 憾
 流 然 菖 蒲 此 沖 祝 儀
 月 氣 遠 一 對 陶 友
 和 歌 數 句 出 秀 逸 感 心
 一 梅

一 花 沙 堤 一 傍 菖 蒲 刀 ね
 沖 想 飲 杯 少 子 是 極 口 憾
 流 然 菖 蒲 此 沖 祝 儀
 月 氣 遠 一 對 陶 友
 和 歌 數 句 出 秀 逸 感 心
 一 梅

移いひまらるをを柏かしわ嶺の山やま
 之内うち赤あか紫むらさ沙せ黄わう龍りゆうと
 去こ用うより入い減げんのの山やま暑あつき
 少すこ見み森まのの心こころ橋はし舟ふねと夕ゆふ
 涼すずもも火ひのの見み杓しやく杖づえのの文ぶん舟ふね

海うみもも法はふ七しち夕ゆふ乃の法はふ杖づえの
 生なま身み鏡かがみ蓮れんのの飯いひ刺さ刺さの
 増ま物もの員いん家け無む色しきのの次つぎ
 弟あにのの海うみのの像ざうの
 功こうのの田でんのの志しのの有いう月げつ

如江集

六

仙鶴堂

見十六日此は徳利の如く
 酒割は逆し如くは九
 存茶を煮る汁祝儀
 一杓一匙の如く
 一杓一匙の如く

新米は白米に
 冬十月は茶と酒と
 夷溝家の如く
 毎度毎色は
 冬十月は茶と酒と
 夷溝家の如く
 毎度毎色は

沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也

沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也
 沈 毛 口 答 然 後 也 也

右邊の指をさしあ
きつとむしめし
子に潜るに藝は
澄針の秋の新道法
名はた線竹の潤
子に潜るに藝は
澄針の秋の新道法
名はた線竹の潤

高士に抱きしめ
沖奥極に御目見
四年寄に例兵服
澄針名に乳人
腰元少飲少右
高士に抱きしめ
沖奥極に御目見
四年寄に例兵服
澄針名に乳人
腰元少飲少右

女指

十

腰

女指

十

腰

間山仲居の兼端女部會
傍學睦友勅向大印
したし結構の仰付身
出母のくまき有るら
口か増法養物抄續編
細

海子純子子二重端晒
彩反物沖目録おん政
戴まはるる方わまら
と高沖禮巨の枕舞
法口被露新と彩

女部會
二
櫻鳥堂

入の御いひ以独る人
 漸に業縁付て更なる
 舅姑者るべし抄甲
 目付度生るべし
 法印の事よきも
 法印の事よきも

在ぬ留昇布南女弟
 わるしひ弟氏と
 山婚礼の事
 御里開の事
 洲きの事

解法元秋の影越の秋葉
 打段の春をこしく海と波
 り懐浦の底へ何角の
 も水清の夢法はゆり葉

清子の心ごとく
 入道口のありて物ほい
 女人の身は長秋の
 心は娘の心海は春
 のつらきと藤末のあめく

立しッつ者かのら之き赤あか路ろをくッぐッぐ
 中ちゆうッつ恙ぜいならくら思し法ぽう下げ向きゆう
 少せう狭せう口く候こうのらちちッつ當たうちちのら
 追お留りゆうッつ淋りんッつッつ早そうとと布ふ法ぽう
 南なん下げのら一いつ越こッつ移うつ可か事じのら

方かた常じょうッつ移うつ由ゆッつ教きやう前ぜんッつ所しよ
 乃の何なにのら一いつ過かッつッつ石いし人にんのら身み
 後のち程ほど時とき之の如ごとくら早そうとと早そうとと沖おほ
 隱いん居きよ候こうッつッつ所しよのら新しんッつッつ新しん發はつ米まい
 少せう々々海かい沙さ守しゆ木も備びのらのら

身みのは擬あや宵より中ちゆう傳でん自じ私しふ
 使し猶なほ不ず中ちゆう幸あき多た能えん然ぜんく
 涉せつ彼か之の名なもも一い源げん切せつ
 一い中ちゆう之の交まじ者まじのの業ごうのの
 下した子こ連れんののおお家かのの貴き

觀くわんのの風ふう味みのの物ぶつ一い日にちもも少せうく
 一い彼かのの命めい子このの理り法ぽうは
 一い子このの式しきああのの子こ承じやう
 一いのの沖ちゆう宿しゆく醉すい何なにのの角かく
 一い大だいのの保ほ者しやのの必かなら實じつ業ごうのの

九葉散茶膏藥くしゅうさんのお
 煎せんのお平ひら金かねのお平ひら漢かんのお
 膏こうのお花はなのお枝えだのお辛しんのお勞らう
 のお苦く勞らうのお心こころ痛いた平ひらのお又また
 海うみのお日ひのお物もの字じのお心こころのお養やし

生せいのお汁じゅうのお花はなのお枝えだのお花はな
 主しゅのお心こころのお花はなのお枝えだのお花はな
 入いれのお花はなのお心こころのお花はなのお枝えだのお花はな
 煎せんのお心こころのお花はなのお枝えだのお花はな
 のお子このお心こころのお花はなのお枝えだのお花はな
 のお心こころのお花はなのお枝えだのお花はな

母の如き 夫婦

青姉妹 婿 娘 孫

伯父 叔母 甥 姪 中

一家 親類 縁を 代人の 名者

幸 由事 世を 文通 際

海 心 女 小 用

文字 あ ま 記

ま り 勢

り

女吉成梅園生竹

大本
全一冊

女今川傳多箱

全一冊

おちびく巻紙

全一冊

同小代見抄

全一冊

女用書状業文

全一冊

花鴉百人一首

全一冊

女用文名色帛漆

全一冊

字宝前用集

小本
全一冊

女消息往來

半紙本
小本
五枚

子供前用集

小本

壽福二世相大鏡

全一冊

元文師所寫抄

小本

文政五年春正月上梓

江戸常盤橋筋通油町

書林

同横山町三丁目

鶴屋喜右衛門
岩戸屋喜三郎

